

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Sakuragi Y., Takada H., Sato H., Kubota A., Terasaki M., Takeuchi S., Ikeda-Araki A., Watanabe Y., Kitamura S., Kojima H., An analytical survey of benzotriazole UV stabilizers in plastic products and their endocrine-disrupting potential via human estrogen and androgen receptors. *Science of the Total Environment*, 800, 149374 (2021)
- 2) Tsugoshi Y., Watanabe Y., Tanikawa Y., Inoue C., Sugihara K., Kojima H., Kitamura S., Inhibitory effects of organophosphate esters on carboxylesterase activity of rat liver microsomes. *Chem Biol Interact.*, 327, 109148 (2020).
- 3) Fujino C., Watanabe Y., Sanoh S., Hattori S., Nakajima H., Uramaru N., Kojima H., Yoshinari K., Ohta S., Kitamura S., Comparative study of the effect of 17 parabens on PXR-, CAR- and PPAR α -mediated transcriptional activation. *Food Chem Toxicol.* 133, 110792 (2019) Nov;133:110792.
- 4) 2) Fujino C., Watanabe Y., Sanoh S., Nakajima H., Uramaru N., Kojima H., Yoshinari K., Ohta S., Kitamura S., Activation of PXR, CAR and PPAR α by pyrethroid pesticides and the effect of metabolism by rat liver microsomes. *Heliyon.* 5(9): e02466. (2019)
- 5) Watanabe Y., Hattori S., Fujino C., Tachibana K., Kojima H., Yoshinari K., Kitamura S., Effects of benzotriazole ultraviolet stabilizers on rat PXR, CAR and PPAR α transcriptional activities. *Fundam. Toxicol. Sci.*, 6(2), 57-63 (2019).
- 6) Ozaki H., Sugihara K., Watanabe Y., Moriguchi K., Uramaru N., Sone T., Ohta S., Kitamura S., Comparative study of hydrolytic metabolism of dimethyl phthalate, dibutyl phthalate and di(2-ethylhexyl) phthalate by microsomes of various rat tissues. *Food Chem Toxicol.*, 100, 217-224 (2017).
- 7) Tanoue C., Sugihara K., Tayama Y., Uramaru N., Watanabe Y., Ohta S., Kitamura S., Variability of Zalepron 5-oxidase activity in mice and humans, and inhibition by raloxifene. *Drug Metabolism Letters*, 10(4), 278-285 (2017)
- 8) Ozaki H., Sugihara K., Watanabe Y., Ohta S., Kitamura S., Cytochrome P450-inhibitory activity of parabens and phthalates used in consumer products. *J Toxicol Sci.*, 41(4), 551-560 (2016)
- 9) Fujino C., Tamura Y., Tange S., Nakajima H., Sanoh S., Watanabe Y., Uramaru N., Kojima H., Yoshinari K., Ohta S., Kitamura S., Metabolism of methiocarb and carbaryl by rat and human livers and plasma, and effect on their PXR, CAR and PPAR α activities. *J Toxicol Sci.*, 41(5), 677-691 (2016).

[総説]

[著書]

[その他]

2. 主な学会発表

[国際学会]

[国内学会]

- 1) 浦丸 直人, 坂本 佳澄, 鈴木 智貴, 木根淵 有香, 川村 涼, 渡部 容子, 北村 繁幸, 樋口 敏幸, ラズベリーケトン¹の還元的代謝および3T3-L1細胞の脂肪化抑制, 日本薬学会第139年会, 3月, 千葉 (2019).
- 2) 小畑 りさ, 種田 千夏, 村橋 毅, 浦丸 直人, 長部 誠, 渡部 容子, 樋口 敏幸, PM2.5由来抽出物質によるTissue factorの発現誘導, 日本薬学会第139年会, 3月, 千葉 (2019).
- 3) 浦丸 直人, 島田 沙保, 厚川 雄大, 渡部 容子, 樋口 敏幸, 高脂肪食負荷および通常食ラットにおけるシトクロムP450活性/発現の比較検討, フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9月, 佐世保 (2018).
- 4) 津越幸枝, 渡部容子, 杉原数美, 北村繁幸, リン系難燃剤のラット肝および小腸カルボキシルエステラーゼに対する阻害効果, フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9月, 佐世保 (2018).
- 5) 浦丸直人, 上田志帆, 小林寛秀, 山本税, 横田賢治, 渡部容子, 立花研, 樋口敏幸, ラット高脂肪食負荷によるシトクロムP450活性変動への影響, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018).
- 6) 佐藤志穂, 渡部容子, 立花研, 浦丸直人, 小島弘幸, 吉成浩一, 樋口敏幸, 北村繁幸, フタル酸エステル類とその代謝物が核内受容体PXRおよびPPAR α の転写活性に及ぼす影響, 日本薬学会第138年会, 3月, 金沢 (2018).
- 7) 渡部容子, 服部祥子, 立花 研, 佐能正剛, 太田 茂, 北村繁幸, 合成ムスク類のラット in vivoにおける肝シトクロムP450活性への影響. 日本薬学会第137年会, 3月, 仙台 (2017).
- 8) 服部祥子, 渡部容子, 立花 研, 小島弘幸, 吉成浩一, 北村繁幸, ベンズトリアゾール系紫外線吸収剤のPXR, CAR,およびPPAR α 活性とシトクロムP450活性への影響. 日本薬学会第137年会, 3月, 仙台 (2017)
- 9) 津越幸枝, 渡部容子, 杉原数美, 北村繁幸: リン系難燃剤のラットカルボキシルエステラーゼ活性に対する阻害効果. 日本薬学会第137年会, 3月, 仙台 (2017).
- 10) 柳川ひらり, 渡部容子, 小島弘幸, 吉成浩一, 北村繁幸, リン系難燃剤のラット核内受容体PXR, CARおよびPPAR α に対するアゴニスト活性. 日本薬学会第137年会, 3月, 仙台 (2017)
- 11) 藤野智恵里, 渡部容子, 浦丸直人, 佐能正剛, 小島弘幸, 吉成浩一, 太田 茂, 北村繁幸, カルバ

メート系農薬のラットおよびヒトでの *in vitro* 代謝とその核内受容体活性への影響. 日本薬学会第 137 年会, 3 月 24-27 日, (2017).

- 12) 清水 良, 浦丸直人, 渡部容子, 太田 茂, 北村繁幸, 杉原数美, 臭素化難燃剤 PBDE 類による AhR の活性化を介した UGT 遺伝子発現誘導機構. 内受容体 PXR および CAR 転写活性作用を示す甲状腺ホルモン構造類似環境化学物質のスクリーニング. 日本薬学会第 137 年会, 3 月, 仙台 (2017).
- 13) 渡部容子, 杉原数美, 立花 研, 佐能正剛, 太田 茂, 北村繁幸, *in vivo* におけるラット肝シトクロム P450 活性に対するリン系難燃剤の影響. フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月, 東京 (2016).
- 14) 津越幸枝, 谷川悠華, 渡部容子, 北村繁幸, ラット肝カルボキシエステラーゼに対するリン系難燃剤の阻害作用. フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月, 東京 (2016).
- 15) 清水 良, 浦丸直人, 渡部容子, 太田 茂, 北村繁幸, 杉原数美, 臭素化難燃剤 PBDE 類による肝 UGT 遺伝子発現誘導機構の解析. フォーラム 2016 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月, 東京 (2016).
- 16) 服部祥子, 渡部容子, 吉成浩一, 小島弘幸, 北村繁幸, ベンズトリアゾール系紫外線吸収剤のラット核内受容体 PXR、CAR および PPAR α に対するアゴニスト活性. 第 60 回日本薬学会 関東支部大会, 9 月, 東京 (2016).
- 17) 大久保智貴, 森口恭子, 渡部容子, 北村繁幸, ラット肝および小腸ミクロソームによるサリチル酸エステルの加水分解活性における基質特異性. 第 60 回日本薬学会 関東支部大会, 9 月, 東京 (2016).
- 18) 柳川ひらり, 渡部容子, 吉成浩一, 小島弘幸, 北村繁幸, ラット核内受容体 PXR、CAR および PPAR α に対するリン系難燃剤のアゴニスト活性. 第 60 回日本薬学会 関東支部大会, 9 月, 東京 (2016).
- 19) 森口恭子, 渡部容子, 杉原数美, 北村繁幸, ラット肝、小腸及び膵臓ミクロソームのフタル酸エステルに対する加水分解活性の基質特異性. 日本薬学会第 136 年会, 3 月, 横浜 (2016).
- 20) 津越幸枝, 谷川悠華, 渡部容子, 浦丸直人, 小島弘幸, 北村繁幸, パラベン、サリチル酸エステル及びフタル酸エステルの核内受容体の構造活性相関. 日本薬学会第 136 年会, 3 月, 横浜 (2016).
- 21) 清水 良, 浦丸直人, 渡部容子, 太田 茂, 北村繁幸, 杉原数美, 臭素化難燃剤の PBDE およびその代謝物による肝 UGT 遺伝子発現への影響. 日本薬学会第 136 年会, 3 月, 横浜 (2016).

3. その他特筆すべき研究業績

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2. その他特筆すべき教育業績